

## 令和元年度 第3回羽曳野市子ども読書活動推進委員会会議録（要録）

日 時： 令和2年2月12日(水) 13時30分～14時50分

場 所： 羽曳野市役所 A棟東中会議室

出席者：(委員) 河津委員、堂山委員、遠山委員、菅谷委員、田川委員、細井委員、山田委員、  
脇谷委員

(欠席) 瀬戸口委員、山下委員

(教育委員会) 上野教育次長兼生涯学習室長、藪中社会教育課長補佐

(事務局) 奥野館長、岩佐課長補佐、安東

傍聴者： なし

### 次第

#### 1.開会

教育次長あいさつ、委員紹介、事務局紹介

#### 2.議事

会長あいさつ

パブリックコメントの実施結果について

「第3次羽曳野市子ども読書活動推進計画」最終案について

#### 3.閉会

### 意見・報告等

- ・パブリックコメントは8名から意見あり。

正規の司書職員の採用・増員等 7件

中学校への司書配置等 3件

ヤングアダルト（中高生）へのサービス等 3件

資料の充実等 3件 など

- ・パブリックコメントの意見により、計画にわかりやすい副題をつけることについて

→これまでなかったもの（副題）をつけるなら中身に新しいことがほしい。

図書館で検討して中身に相応しい副題を考えてほしい。

- ・パブリックコメントの意見により、まちライブラリーへの支援に関する項目を追加することについて、読書が広がるものとして入れた。

→どういう支援をしてくれるのか。→具体的に話が出てこないとわからない。

幼稚園などの団体と子ども文庫をむすぶきっかけを図書館でつくってもらえないのか。

子ども文庫の本を活用できる方策も考えられるならこの項目はきっかけになるかもしれない。正規職員が少ないとそういうことも相談しにくい。

- ・パブリックコメントでは、職員の大事さ、正規職員の配置に関する意見が多い。本文に盛り込めないか。

- ・パブリックコメントの意見に対する考えとして、嘱託員等も含めてとあるが、正規職員と非正規職員ではできること、果たす役割がちがう。権限や待遇も違うので同じようにいかないのではないか。正規の司書職員が大事であり、それもふくめた体制の充実の文言がほしい。

- ・連携に関して言えば、正規職員でなければならない。連携を進めるためにも、施策を進めることができる職員が重要で、職員体制の構築が必要、などを盛り込んでもらえたらと思う。非正規の職員がものすごく頑張っているのはわかっている。が、非正規にそれだけの責任を負わせるのか、ということになる。
- ・普段の図書館の利用ではなんの問題もないが、他所の図書館を見ていると全世代型の講演会を図書館が主催しているとか、各課と連携しているとかがある。そういうことは非正規の方では難しいのではないか。それで羽曳野市の図書館は講座や講演会が少ないのかと感じる。
- ・羽曳野市の図書館の非正規率は89%で市全体から見ても極端に高く愕然とした。どうして図書館だけこれほど非正規率が高いのか疑問に思う。手がまわらないもどかしさにつながっているのではないか。市全体でバランスよく考えてもらえないのか。非正規職員は責任を持ってできる範囲も限られている。
- ・計画の進め方として体制の充実に努めるとある。すぐに人をつけます、というのは現実的でないということではわかっているが、必要性は認めるべき。計画だけあってもだめで実行していくことが大事。人の重要性を盛り込んで将来に向けて検討・努力する表現は入れてもらうべきでは。
- ・中学校への司書配置が進んでいないことを懸念している。学校司書の全校配置をすぐにしなすとは書けないと思うが、努力しなすとか取り組みしなすとかの形にできないか。人についてはパブリックコメントでも大事だとの意見は多かったので反映できないか。
- ・YA層の利用が少ないことに具体的に図書館としてどういうことを考えているのかの方策を盛り込めないか。盛り込まないと前に進まないのかとも考える。具体策が見えないのでは。
  - 具体的に今こういうことがあるというのではなく、この計画に基づき具体的に展開していく。
  - 計画自体に細かいことは述べていないが、第2次計画では調査研究を行いますと表現した部分を、取り組みを行いますとするなど、前進させていることを含んでいると理解してほしい。
- ・数値目標とは別に、計画が進展しているかどうかを何によって検証する考えか。
  - （配布資料により）達成できたもの・できないものがある。子どもの人数が減っているなどの要因もある。目標としてではなく数値として経緯を見守っていくことを考えている。数値の検証は引き続き行う。
- ・登録者数・登録率が出ているがどういう出し方か。
  - 累積で有効なものであり、5年以内に更新のある数字。年齢別の貸出の数字（13歳は●●、16歳は△△など）は出していない。
- ・本を借りられる場所があることは大事だが、それをもう一歩すすめないとこれからの図書館はニーズにこたえられない。羽曳野市の図書館はどうなっていくのだろうかという不安感がある。
  - 次につながられる計画案をここから考えてほしい。図書館で相談して進めてもらえたらと強く思う。
- ・羽曳野市としてこのように子ども読書の計画を進めていく、という市のトップの意思として、市長にコメントを入れてもらうことはできないのか。
- ・推進体制の整備について
  - これまでは計画を策定して以降委員をやっていて検証をしていなかった。今後、年に1回でも統計数値を出して検証するなど、こちらが常に問いかけていくことで具体化してもらいやすいのでは。
  - 推進委員会を活用して、どういう取り組みをしたかなどを聞いていくのがいいのではないか。
- ・パブリックコメントに意見を出してくださった人がいることはありがたい。回答はWEBなどで行う。
  - 最終案の修正や細かな調整が必要な場合、事務局、会長、副会長、脇谷委員でまとめる。
  - 今日の意見を参考に市の内部決裁を経て送付する。
  - 来年度、当委員会で進捗管理をしていく。